

医療ニュース

東海大がハワイ大医学部と教育連携

2015年10月20日（火）配信 （m3.com 編集部）

東海大学は10月19日、ハワイ大学医学部と医学教育連携に関する覚書を締結し、2016年度から「ハワイ医学教育プログラム」を導入すると発表した。締結に伴い、東海大学は「日本初の本格的な米国式医学教育を実践し、米国 ECFMG の認定要件を満たすロールモデルとなる」としている。締結は8月。

米国 ECFMG（Educational Commission for Foreign Medical Graduates）は、海外の医師等がアメリカで臨床研修する際の認定許可を出す機関。2023年からは、72週以上の臨床実習などを義務付ける WFME（世界医学教育連盟）の基準を満たした医学部の卒業生のみが許可を受けられるようになるため、日本の医学教育機関でも対応が迫られている。

東海大学医学部が計画する「ハワイ医学教育プログラム（HMEP）」は、（1）ハワイ大学医学部が、米国で臨床研修経験がある医師を東海大学医学部に講師として派遣し、1～3年生を対象にしたカンファレンスと講義を実施、（2）受講した学生の中で10～20人を選抜し、1～2カ月間、ハワイ大学医学部の臨床実習準備教育プログラムに参加、（3）同プログラムの修了者は、ハワイ大学医学部提携の日本国内の臨床実習病院で、米国式臨床実習を履修し、東海大学医学部5年生の臨床実習として認定する——のが骨子。

米国式臨床実習では、医学生が Student Doctor として、外来診療を初診から担当し、上級医に相談しながら診療に加わるなど、診療参加型教育・ジェネラル（総合的医療）を中心とした教育になる。このプログラムを受けることで、米国の医師国家試験の対応もしやすくなり、日米両国の医師免許同時取得も可能になるという。

ハワイ大医学部国際医学医療オフィス部長補佐で教授の町淳二氏らが協力、計画の導入に尽力した。東海大学は「アメリカと日本の医学教育の良い点を合わせ、人々により良い医療を提供できる医師の育成に寄与したい」と話している。